

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	からだの構造	講師	氏名	内園知美	開講年次	単位・時間	
			所属	WAGON	1年次 前期	1単位 15時間	
			実務経験				
科目のねらい	看護師といった人間の健康に関わる職種では、当然のことながら、人間の体に関する知識が必要とされる。ここでは人体の正常な構造(かたち)について学ぶ。同じ働きをもつ人体の各部分をまとめて機能別に学び、系統解剖学を理解する。						
到達目標							
知識・技術	1. 解剖学的用語を説明することができる。 2. 人体の各器官系統の構造が説明できる。						
思考判断・表現	1. からだの構造を理解し、人体模型図を使用しながら構造について説明できる。						
主体的学習態度	1. グループワークにおいて相手の意見を受け止めながら活発な意見交換ができる。 2. 創意工夫をしながら人体模型を作成することができる。						
科目評価	定期(筆記)試験 100%						
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学(医学書院)						
参考文献	人体の構造と機能(医師薬出版社) 人体解剖ビジュアル—からだの仕組みと病気—(サイオ出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 解剖学的用語 1) 解剖学的正常位 2) 方向 3) 面と断面 4) 人体の部位を示す用語 5) 人体内部の腔所 6) 器官と11種の器官系	○			内園知美	からだの機能 日常生活からみるからだ 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体を守ることの病を見る こどもの病を見る	
2	2. おおまかな身体のしくみ I 1) 全身の臓器 2) 食べてから便になるまでの流れ 3) 息を吸って吐く呼吸の流れ 4) 全身を駆け巡る血液の流れ 5) 尿が作られて出るまで 6) 全身の骨の名称	○					単元別試験：解剖学的用語
3	2. おおまかな身体のしくみ II 1) 全身の骨の名称 2) 全身の筋肉の名称 3) 脳と神経の名称 4) 目や耳や鼻のつくり 5) 女性の身体特有のつくり 6) 男性の身体特有の作り 7) ホルモンが作られる場所	○					単元別試験：おおまかな身体のしくみ I
4	3. それぞれの部位の細かい構造 I 1) 胃と肝臓・胆嚢・膵臓 2) 呼吸器管全体 3) 気管・気管支・肺胞 4) 動脈	○					単元別試験：おおまかな身体のしくみ II
5	3. それぞれの部位の細かい構造 II 1) 静脈 2) 心臓 3) 腎系統 4) 腎臓の中の構造	○					単元別試験：それぞれの部位の細かい構造 I
6	3. それぞれの部位の細かい構造 III 1) 全身の骨 2) 全身の筋肉の名称 3) 脳 4) 脊髄神経 5) 感覚器(眼・耳・鼻)	○					単元別試験：それぞれの部位の細かい構造 II
7	3. それぞれの部位の細かい構造 IV 1) 女性生殖器 2) 乳房 3) 男性生殖器 4) 全身のリンパ管 5) 内分泌腺	○					単元別試験：それぞれの細かい構造 III
8	単元別試験と解説	○					単元別試験：それぞれの細かい構造 IV

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	からだの機能	講師	氏名	①岡野大輔 ②小坂宣靖	開講年次	単位・時間		
			所属	①専任教員、②WAGON	1年次 前期	2単位 60時間		
			実務経験	①臨床看護師				
科目の ねらい	看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活行動の援助を考えると、解剖生理学の知識は土台として活用できる。からだの構造で学習した人体の構成要素（細胞、組織、気管、器官系）は固有の働きをもつ。ここでは、各器官系の正常な機能（働き）について学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	1. 細胞と組織、皮膚と粘膜、血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系、骨格系、筋系、神経系、感覚系、免疫系それぞれの機能（働き）を説明できる。 2. それぞれの機能（働き）の関連性・影響度を説明できる。							
思考 判断・表現	1. 各機能の連携がとれなくなった場合に起こりうる身体問題について、様々な視点から検討し予測できる。 2. からだに機能（働き）が、からだの構造と密接な関係にあることを指摘できる。 3. 日常生活動作の視点から、からだの機能（働き）を組み立てることができる。							
主体的学習 態度	1. 人体に興味を持ち、自ら質問ができる。 2. 『からだの構造』を復習し、講義に臨むことができる。							
科目評価	単元別試験 30% ポートフォリオ 20% 定期試験 50% 計100%							
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）							
参考文献	人体の構造と機能（医師薬出版社） 人体解剖ビジュアル—からだの仕組みと病気—（サイオ出版）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	・ホメオスタシス ・構成する			○ オンデ マンド	W A G O N		血液のまとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・ホメオスタシス ・構成する ・保護する	
2	・保護する							
3	ホメオスタシス、構成する、保護する まとめ		○					
4	・血液の組成			○ オンデ マンド				・血液の組成
5	血液の組成 まとめ		○					
6	・心臓の構造と機能			○ オンデ マンド				まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・心臓の構造と機能 ・血管の構造と機能 ・循環の調整機構
7	・血管の構造と機能							
8	・循環の調整機構							
9	心臓の構造と機能、血管の構造と機能、循環の調整機構まとめ		○					
10	・神経性調節機構の概要1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み2・3			○ オンデ マンド	岡 野 大 輔		まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・神経性調節機構の概要1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み2・3	
11	・神経性調節機構の概要1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み2・3まとめ		○					まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み1 ・からだの外からの外部情報を受容して中枢神経に伝える仕組み2・3
12	からだの内外から情報を処理し、指令を出す中枢神経とその末梢神経の構造と機能—1・2・3・4・5・6			○ オンデ マンド				まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・からだの内外から情報を処理し、指令を出す中枢神経とその末梢神経の構造と機能—1・2・3・4・5・6
13	からだの内外から情報を処理し、指令を出す中枢神経とその末梢神経の構造と機能—1・2・3・4・5・6		○					
14	からだの内外から情報を処理し、指令を出す中枢神経とその末梢神経の構造と機能—1・2・3・4・5・6 まとめ		○					
15	・液性調節の概要・ホルモンの内分泌様式・ホルモン分泌の調節の方法 ・内分泌腺 ・視床下部—下垂体系			○ オンデ マンド				まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・液性調節の概要・ホルモンの内分泌様式・ホルモン分泌の調節の方法 ・内分泌腺 ・視床下部—下垂体系
16	・液性調節の概要・ホルモンの内分泌様式・ホルモン分泌の調節の方法 ・内分泌腺 ・視床下部—下垂体系 まとめ		○					
17	酸素を取り込む「呼吸に関する概要」「換気」「ガス交換」			○ オンデ マンド			からだの構造 日常生活からみるからだ 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体を守ることの病を見る	まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・酸素を取り込む「呼吸に関する概要」「換気」「ガス交換」
18	酸素を取り込む「呼吸に関する概要」「換気」「ガス交換」まとめ		○					
19	脳神経系 内分泌系 呼吸器系			○ オンデ マンド				オンデマンド授業開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・脳神経系 内分泌系 呼吸器系
20	脳神経系 内分泌系 呼吸器系 まとめ		○					
21	・摂食行動・食物の移送、咀嚼し味わう・消化、吸収1			○ オンデ マンド	小 坂 宣 靖		まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ	
22	・消化・吸収 ・消化・吸収2・3							
23	食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみのまとめ		○					
24	尿の生成・移送と貯蔵/排尿の調節機構/体液量の調節 便の生成/便の移送/排便の調節機構			○ オンデ マンド				まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・尿の生成・移送と貯蔵/排尿の調節機構/体液量の調節 便の生成/便の移送/排便の調節機構
25	尿の生成・移送と貯蔵/排尿の調節機構/体液量の調節 便の生成/便の移送/排便の調節機構							
26	尿・便の生成・移送・調節のまとめ		○					
27	・動く・支える			○ オンデ マンド				まとめの講義開始時に単元試験を行う。単元試験後にまとめの講義を行う。 ・動く・支える ・身体を支える骨格/動くことのできる筋組織：骨格筋収縮のメカニズム ・しなやかな動きをもたらす関節①② ・生命を継ぐための準備①②
28	・身体を支える骨格/動くことのできる筋組織：骨格筋収縮のメカニズム							
29	・しなやかな動きをもたらす関節①② ・生命を継ぐための準備①②							
30	・動く・支える ・身体を支える骨格/動くことのできる筋組織：骨格筋収縮のメカニズム ・しなやかな動きをもたらす関節①② ・生命を継ぐための準備①② まとめ		○					
備考	単元別試験は各2回受験することができる。2回受験した場合2回目の点数が最終評価となる。各1回目の試験を欠席した場合は2回目のみ受験可能。							

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	日常生活から見るからだ	講師	氏名	西岡加代子	開講年次	単位・時間	
			所属	専任教員			
			実務経歴	臨床看護師			
科目のねらい	看護の主眼は、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。日常生活を作り上げている食べること、息をすること、トイレに行くこと、お風呂に入ること、眠ること等の日常生活は、すべてのからだの働きの上に成り立っている。からだがどのようにしてこれらを成し遂げているのかを理解することが、看護実践にとって必要である。ここでは、『からだの機能』で学習をした生理学の知識を日常生活行動に重点を置いた看護の枠組みでからだを見直し、知識の整理をする。そしてその知識を、病んだときの体の変化と、それに伴う日常生活行動の変化を理解する土台にし、援助技術の理解に繋げる。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 「食べる」ために必要な神経系、感覚系、消化器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。 「息をする」ために必要な神経系、感覚系、循環器系、呼吸器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。 「トイレに行く」ために必要な神経系、感覚系、泌尿器系、消化器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。 「お風呂に入る」ために必要な神経系、感覚系、循環器系、呼吸器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。 「寝る」ために必要な神経系、骨格系、筋系、内分泌系のからだの機能が説明できる。 						
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 「食べる」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。 「息をする」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。 「トイレに行く」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。 「お風呂に入る」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。 「寝る」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。 日常生活を支えるために必要な援助を考えることができる。 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 各日常生活に必要なからだの動きについて調べ、具体的に考え、まとめることができる。 グループワークにおいて他者の意見を受け入れながら活発な意見交換ができる。 各日常生活に必要な『からだの機能』の復習ができる。 						
科目評価	定期(筆記)試験:60% 発表資料・発表会:40% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 (医学書院)						
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版会						
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	からだのつくり 日常生活行動とは	○			西岡加代子	からだの構造 からだの機能 療養生活援助技術Ⅰ 療養生活援助技術Ⅱ 診療補助援助技術Ⅰ 診療補助援助技術Ⅱ	
2	からだの知識と日常生活行動をつなぐ 物質の流通 恒常性維持のための調節機構	○	○				
3	動く	○	○				
4	食べる	○	○				
5	「食べる」ために必要な体の機能 空腹を感じる 食事を認識する 食事を口に運ぶ 味を感じる 咀嚼・嚥下 消化・吸収			○			
6	「食べる」まとめ	○					
7	ひとにとって「息をする」とは	○	○				
8	「息をする」まとめ	○					
9	「トイレに行く」ために必要な体の機能 尿意・便意を感じる トイレや便器を認識する トイレに行き衣服・下着の着脱、ペーパーで拭く 便器に座る、便器から立つ 排尿・排便をする			○			
10	「トイレに行く」まとめ	○					
11	「お風呂に入る」 シャワーの水栓を開け、体にシャワーを当てる 手桶に湯を汲みからだを流す 洗剤で体や髪を洗う 浴槽に入ってお湯に浸かり、浴槽から出る 感覚(温度、お風呂に入ることによって感じるもの)			○			○
12	「お風呂に入る」まとめ	○	○				
13	「寝る」 環境 眠れないときの精神的要因とそのメカニズム 眠れないとどのような影響があるか 眠気、夢を見るとは サーカディアンリズム			○			○
14	「寝る」まとめ	○					
15	まとめ	○					

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	生命に必要なエネルギー	講師	氏名	①松尾千徳 ②吉松ことみ	開講年次	単位・時間	
			所属	① ②病院			
			実務経験	①②管理栄養士			
科目のねらい	看護の対象であるあらゆる人々の健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を学ぶ。また、健康障害と栄養療法について疾患系統別の食事療法の実践について学び、栄養管理に必要な知識を身につける。						
到達目標							
知識・技術	1. 生命を維持する栄養の働きが説明できる。 2. 栄養素の成分と体の化合物について理解し述べることができる。 3. エネルギー産生の仕組みや合成について理解し、述べるができる。 4. 各種疾患の患者の食事療法の基本が説明できる。						
思考判断・表現	1. 人生各期における身体的変化の特徴に応じた、望ましい食生活について述べるができる。 2. 栄養食事療法におけるチーム医療での看護師の役割が説明できる。						
主体的学習態度	1. 治療に伴う食事摂取上で問題となる副作用の食事の工夫を考えることができる。 2. 栄養食事指導における患者への望ましい支援方法について考えることができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能3 栄養学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学 医学書院						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他			講師
1	1. 栄養素の種類とはたらき 1) 糖類 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル 6) 食物繊維 7) 水 2. 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 1) 食物の消化 2) 栄養素の吸収 3) 栄養素の代謝 3. エネルギー代謝	<input type="radio"/>			松尾千徳	病理学総論 からだの構造 からだの機能	事前にテキストを読んで予習し、授業後は復習しまとめておくこと
2		<input type="radio"/>					
3		<input type="radio"/>					
4		<input type="radio"/>					
5		<input type="radio"/>					
6	4. 食事と食品 1) 食事摂取基準 2) 食品群とその分類 3) 食品に含まれる栄養素 5. 栄養ケア・マネジメント 6. 栄養状態の評価・判定 7. ライフステージと栄養 1) 乳幼児期 2) 学童期・青年期 3) 成人期 4) 妊娠・授乳期 5) 老年期（PEM） 8. 臨床栄養 1) 病院食 2) 経腸栄養 3) 静脈栄養 4) 疾患・症状別食事療法 （1）循環器系疾患 （2）消化器疾患 （3）栄養・代謝疾患 （4）腎疾患 （5）血液疾患 5) 場面別の栄養管理 （1）治療を要する小児の栄養管理 （2）術前・術後における栄養管理 （3）高齢者の在宅療養における栄養管理 9. がんの食事療法 10. 健康づくりと食生活	<input type="radio"/>			吉松ことみ	発達心理学 各専門分野	各ライフステージについて確認しておくこと
7		<input type="radio"/>					
8		<input type="radio"/>				療養生活援助技術Ⅱ	
9		<input type="radio"/>					
10		<input type="radio"/>				呼吸、循環、血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 日常生活から見るからだ	疾患について確認しておくこと
11		<input type="radio"/>					
12		<input type="radio"/>					
13		<input type="radio"/>					
14		<input type="radio"/>					
15		<input type="radio"/>					

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	小さな生物	講師	氏名	下川 修	開講年次	1年次 前期	単位・時間	1単位 30時間
			所属					
			実務経験	元教授				
科目のねらい	微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の生物学的な特徴を学ぶ。また、微生物が生体に及ぼす影響を理解するとともに、感染症の原因となる微生物の基礎を学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	1. 病原体としての微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)について、種類と特徴を述べることができる。 2. 消毒薬の使用上の注意を理解し、消毒薬を濃度計算し作成できる。							
思考・判断・表現	1. 宿主の臓器、組織別の症状より、病原体である微生物の形態や性状を予測し、検査、治療を説明できる。							
主体的学習態度	1. 社会的に話題や流行になっている感染症に対して、自ら調べ述べるができる。							
科目評価	定期試験(筆記) 100%							
テキスト	微生物学(医学書院)							
参考文献	ナースのための微生物学 ～感染症とその対策の理解のために～ (南江堂) ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③臨床微生物・医動物 (メディカ出版)							
回数	教育内容	教育方法			関連科目	留意事項		
		講義	演習	その他				
1	微生物学の導入 歴史、微生物の特徴	○			下川修	公衆衛生		
2	細菌学総論(検査法・グラム染色・培養法:手指付着菌の培養)	○				からだの機能 日常生活から見るからだ		
3		○	○					
4	ウイルス学総論①	○						
5	ウイルス学総論②、真菌・寄生虫学総論	○						
6	感染とその防御(生体防御機構)	○				診療補助援助技術Ⅱ		
7	滅菌と消毒 消毒薬の作成(濃度計算)と取り扱い	○	○					
8	感染症の予防と治療 予防接種・感染症法、化学療法薬と薬剤耐性菌	○						
9	病原微生物各論 日和見感染症と院内感染(医療関連感染)、人獣共通感染症など	○						
10	呼吸器感染症(インフルエンザウイルス、肺炎球菌)、結核菌	○						
11	消化器系感染症(0157、コレラ菌、赤痢菌、チフス菌、ヘリコバクターピロリ)、肝炎	○				からだの機能 日常生活から見るからだ 臨床薬理学		
12	尿路感染症(大腸菌、緑膿菌)、性感染症(ヒト免疫不全ウイルス、クラミジア、淋菌)	○						
13	皮膚・粘膜感染症(A群連鎖球菌、黄色ブドウ球菌)、脳・神経系感染症(髄膜炎菌、日本脳炎ウイルス)	○						
14	小児、母子、高齢者感染症	○				子どもの病を見る、 リプロダクティブヘルスの看護 高齢者看護へようこそ		
15	真菌感染症と原虫感染症、寄生虫(蠕虫)、衛生動物	○						

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	呼吸・循環・血液の病を見る	講師	氏名	①瀧口朋子 ②安藤肇 ③古財敏之 ④中村あかね ⑤青木孝友 ⑥藤本祥子	開講年次	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	①④⑤病院 ②大学 ⑥専任教員				
			実務経験	①急性期ケア専門士 ②⑤医師 ④⑥臨床看護師				
科目のねらい	看護師が看護実践するためには疾病に対する知識が必要である。呼吸器・循環器・血液（造血器）の代表的な疾患を中心に、その病因・病態生理・特徴的な検査・治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基盤を形成する。							
到達目標								
知識・技術	1. 呼吸器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について理解し、説明できる。 2. 循環器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について理解し、説明できる。 3. 各血液細胞の機能や機能障害が起こる機序について理解し説明できる。							
思考 判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。							
主体的学習 態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。							
科目評価	定期試験（筆記） 80% 課題20% 合計100%							
テキスト	専門分野 系統学看護講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院 専門分野 系統学看護講座 成人看護学3 循環器 医学書院							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾患と看護① 呼吸器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護② 循環器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症（メディカ出版）							
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項	
1	1. 呼吸器・循環器疾患特有の症状とその病態生理 1) 呼吸困難 2) 胸痛 3) チアノーゼ 4) 咳嗽と喀痰 5) 胸水貯留 6) 冠循環の異常と心筋収縮の指令の障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	瀧口朋子	からだの機能 からだの構造 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	課題①「肺と循環のつながり」 （第1回目までの事前課題） 課題②まとめ学習（自己学習） （各講師ごとのまとめ）	
2		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
3		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
4	2. 呼吸器疾患 1) 気道・肺の炎症 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎 2) 呼吸不全・気胸 3) 肺循環障害 肺梗塞・肺塞栓症 4) 肺腫瘍 癌・中皮腫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	安藤肇			
5		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
6		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
7	3. 循環器疾患 1) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 2) 心不全 3) 不整脈 4) 心臓弁膜症 5) 血管の疾患 ①動脈瘤 ②静脈瘤	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	古財敏之			
8		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
9		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
10		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
11	呼吸器・循環器を看るとは？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	藤本祥子			課題②についての「学びの発表」
12	4. 血液（造血器）疾患特有の症状とその病態生理 1) 貧血 2) 出血傾向	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	中村あかね	課題③ 「血液細胞の持つ諸機能について」 （第12回目までの事前課題） 課題④まとめ学習（自己学習） （各講師ごとのまとめ）		
13		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
14	5. 血液疾患 1) 白血病 2) 血友病 3) ホジキン病・非ホジキン病	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	青木孝友			
15	造血器を看るとは？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	藤本祥子	課題④についての「学びの発表」		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	消化及び排泄の病を見る	講師	氏名	①西島慎二 ②岩尾真孝 ③寺戸三千和 ④不動寺美紀 ⑤小池正美	開講年次	1年次 前～後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	①～④病院 ⑤				
			実務経験	①②③医師 ④透析看護認定看護師 ⑤				
科目のねらい	看護師が看護実践するためには疾病に対する知識が必要である。消化及び排泄に関する代表的な疾患を中心にその病因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基盤を形成する。また、消化及び排泄の病が日常生活に影響を及ぼすことについて理解する。							
到達目標								
知識・技術	1. 消化器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について説明できる。 2. 腎・泌尿器、電解質の構造とその機能や機能障害が起こる機序について説明できる。							
思考判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、臨床推論することができる。 3. 消化器の障害により起こりうることを考え、対象を看ることが出来る。 4. 排泄機能の障害により起こりうることを考え、対象を看ることが出来る。							
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。							
科目評価	定期試験(筆記) 80% 課題20% 合計100%							
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門基礎 腎・泌尿器 (医学書院)							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護③ 消化器 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌代謝 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 (メディカ出版)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	1. 消化器疾患 1) 症状とその病態生理 ①腹痛 ②便秘	○		○	小池正美	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	課題①「消化器の構造と機能」 (第1回目までの事前課題)	
2	③下痢 ④嘔吐 ⑤吐血 ⑥門脈圧亢進症	○					課題②消化器疾患の癌について (第6回目までの事前課題)	
3	⑦肝性脳症 ⑧黄疸 ⑨腹水 ⑩口腔内症状	○					課題③まとめ学習(自己学習) (各講師ごとのまとめ)	
4	2) 食道の疾患 3) 消化器の炎症と潰瘍	○			西島慎二・岩尾真孝			
5	1) 胃十二指腸潰瘍 2) 潰瘍性大腸炎 3) クローン病	○						
6	4) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症と腫瘍 ①肝硬変 ②肝がん	○						
7	③肝炎 ④胆石症 ⑤胆嚢炎 ⑥膵炎	○						
8	消化器を看るとは?	○		○	小池正美		課題③についての「学びの発表」	
9	2. 排泄(腎・泌尿器系) 1) 症状と病態生理 ①アンギオテンシンと体液調整 ②ホルモンによる体液調整 ③腎臓の排泄(ナトリウム再吸収)	○			不動寺美紀		課題④「泌尿器の構造と機能」 (第9回目までの事前課題)	
10	④電解質異常 ⑤浮腫 ⑥脱水(3つの種類) ⑦アシドーシスとアルカローシス	○					課題④「腎臓の構造と機能」 (第11回目までの事前課題)	
11	2) 腎臓病 ①糸球体腎炎 ②腎不全(急性・慢性)	○					課題⑤まとめ学習(自己学習) (各講師ごとのまとめ)	
12	3) 腎・尿路の腫瘍 ①腎臓癌 ②尿管腫瘍 ③膀胱癌	○			寺戸三千和			
13	4) 尿路の炎症 ①尿路感染症	○						
14	5) 尿路の通過障害 ①尿路結石	○						
15	排泄を看るとは?	○		○	小池正美		課題⑤についての「学びの発表」	

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	体の調節と神経の病を看る	講師	氏名	①福田康則 ②富田健一 ③木下良正 ④安武夕子	開講年次	単位・時間	
			所属	①②③病院 ④専任教員	1年次 後期	1単位 30時間	
			実務経験	②③医師 ①④臨床看護師			
科目のねらい	内分泌・代謝、脳神経系の代表的な疾患を中心にその病因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基礎能力を身につける。						
到達目標							
知識・技術	1. 内分泌・代謝の構造とその機能や、機能障害がおこる機序について説明できる。 2. 脳神経の構造とその機能や、機能障害がおこる機序について説明できる。						
思考判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。 3. 各器官についての知識を活用し、解剖生理学と関連させた学習をすることができる。						
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護④ 脳・神経機能障害/感覚機能障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾病と看護⑤ 脳・神経（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾病と看護⑧ 腎/泌尿器/内分・泌代謝（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	内分泌・代謝 症状と病態生理 ホルモン分泌異常に伴う症状	○			福田 康 則	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	人体の構造と機能について、復習して講義に臨むこと。 講義終了後はテキスト・配布資料で復習する。
2	疾患の診断と治療（内分泌）	○					
3	下垂体疾患・甲状腺疾患・上皮小体（副甲状腺）・副腎疾患	○					
4		○					
5	疾患の診断と治療（代謝） 1) 糖尿病 2) 高尿酸血症 3) 高脂血症	○			富 田 健 一		
6	体の調整を看るとは？	○	○		安 武 夕 子		
7	脳神経系症状とその病態生理 1) 頭蓋内圧亢進 2) 脳ヘルニア	○			木 下 良 正		
8	脳血管障害 1) 脳梗塞 2) 脳出血	○					
9	3) もやもや病 4) 脳動静脈奇形	○					
10	頭部外傷	○					
11	脳腫瘍	○					
12	脳炎・髄膜炎・感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病	○					
13	変性疾患 1) パーキンソン病 2) 筋萎縮性側索硬化症	○					
14	認知症 1) アルツハイマー病 2) 血管性認知症 3) レビー小体型認知症	○					
15	脳神経を看るとは？	○	○				

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	運動することと感覚の病を見る	講師	氏名	①桑原佑典 ②佐々木奈津子 ③小池正美	開講年次	1年次 後期	単位・時間 1単位 30時間
			所属	①専門学校 ②病院			
			実務経験	①作業療法士 ②医師			
科目のねらい	運動器・感覚器疾患の代表的な疾患を中心に、その原因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメント能力を身に付ける。						
到達目標							
知識・技術	1. 運動器・感覚器障害が出現するメカニズム及び原因を理解し、説明できる。 2. 運動器・感覚器疾患に対する検査、治療の目的を理解し、説明できる。 3. 運動器・感覚器疾患から起こりうる合併症や予後について理解し、説明できる。						
思考 判断・表現	1. 運動器・感覚器障害に伴う症状が、日常生活にどのような影響を与えるかを看護の視点から検討できる。						
主体的学習 態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 3. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 運動器 成人看護学⑩（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 皮膚 成人看護学⑫（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 眼 成人看護学⑬（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 成人看護学⑭（医学書院）						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 病気のなりたちと回復の促進1（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 病気のなりたちと回復の促進2（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1（医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	運動器系の病態生理とその症状	○			桑原佑典	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 治療学総論 病理学総論 臨床薬理学	各講義内容を事前にテキストを熟読し、わからない部分を明確にし、質問できるように準備をしておく。
2	骨折による疾患	○					
3	1) 大腿骨頸部骨折 2) 大腿骨骨幹部骨折 3) 脊椎骨折	○					
4	4) 上肢・下肢の骨折 5) 鎖骨骨折 6) 胸腰椎骨折	○					
5	腰痛症	○					
6	1) 椎間板ヘルニア 2) 腰部脊柱管狭窄症 検査) ミエログラフィー	○					
7	脱臼・捻挫・骨粗しょう症・骨腫瘍の病態生理とその治療 (ギブス療法・保存療法を踏まえて、看護師に必要な情報収集を実践)	○	○		小池正美	事前課題 「包帯法」について学習し、講義に臨む	
8	運動器系を看るとは？	○					
9	眼疾患の病態生理とその症状	○			小池正美		
10	1. 視覚障害 1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜剥離	○					
11	2. 屈曲の障害 1) 近視 2) 乱視 3) 弱視	○					
12	耳鼻科咽喉科疾患の病態生理とその症状 1) 滲出性中耳炎 2) メニエール症候群	○			佐々木奈津子		
13	皮膚疾患 病態生理とその症状 1) 表在性皮膚疾患 2) 接触性皮膚炎 3) 陥入爪 4) 白癬症 5) 疥癬 6) 带状疱疹 7) 物理化学的皮膚障害：熱傷	○					
14	皮膚疾患 病態生理とその症状 1) 表在性皮膚疾患 2) 接触性皮膚炎 3) 陥入爪 4) 白癬症 5) 疥癬 6) 带状疱疹 7) 物理化学的皮膚障害：熱傷	○			小池正美		
15	感覚器を看るとは？	○					

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	体を守ることを病を看る	講師	氏名	①掛札博士 ②小池正美 ③岡野大輔	開講年次	単位・時間		
			所属	①病院 ② ③専任教員				
			実務経験	①②③臨床看護師				
科目のねらい	看護師が看護実践するためには、疾病に対する知識が必要である。アレルギー・膠原病及び感染症の代表的な疾患を中心に、その原因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメント能力を身に付ける。							
到達目標								
知識・技術	1. アレルギー・膠原病・感染症が出現するメカニズム及び原因を理解し、説明できる。 2. アレルギー・膠原病・感染症疾患に対する検査、治療の目的を理解し、説明できる。 3. 日常に起こりうる感染症について説明できる。							
思考 判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。 3. I～IV型までのアレルギー反応の機序を説明し、代表例をあげることができる。							
主体的学習 態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる 2. 主体的に予習・復習を行うことができる							
科目評価	定期試験（筆記）100% 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑤ 造血機能障害/免疫機能障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進③ 臨床微生物・医動物（メディカ出版）							
参考文献	健康の回復と治療⑦ 疾病と治療（メディカ出版）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	アレルギー症状とその病態生理 I～IV型アレルギー	○			小池正美	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 治療学総論 病理学総論 臨床薬理学	身体の仕組みと働きについて事前に 復習して臨むこと。 また講義資料を持参すること。	
2		○						
3	膠原病、自己免疫疾患とその機序 症状とその病態生理	○						
4	1) 自己免疫疾患 SLE 関節リウマチ シェーグレン症候群 強皮症	○						
5	感染症を学ぶための基礎知識 1) 感染症 2) 炎症の4徴候 3) 発熱・倦怠感 4) 疾患	○			掛札博士			
6		(1) インフルエンザ感染症 (2) HIV感染症	○					
7		(3) 多剤耐性菌感染症	○					
8	体を守ることを看る	○			岡野大輔			

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	子どもの病を看る	講師	氏名	①酒井道生 ②田中千尋	開講年次	単位・時間	
			所属	①病院 ③専任教員			
			実務経験	①医師 ②臨床看護師			
科目のねらい	小児科は臓器別診療ではなく、総合診療である。また、小児は大きさが小さいだけでなく、解剖生理学的にも精神的にも成人とは異なった特性がある。ヒトの臓器の発育・発達は臓器ごとに大きく異なる。看護の大半は成人疾患を理解することにあるが、そこで習ったことをそのまま小児に当てはめることはできない。小児期に発症した疾患が成人期に至るまでのような経過や過程たどるのかを学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 小児の臓器の発育・発達の特徴を述べることができる。 2. 代表的な小児疾患の好発年齢や病態、症状の重要なポイントと検査、治療を行う目的を説明できる。						
思考・判断・表現	1. 小児期に発症した疾患が成人期に至るまでの過程を考察できる。 2. 小児疾患が子どもとその家族に与える影響を発言できる。						
主体的学習態度	1. 事前に小児疾患で学習する内容に類似した成人疾患を予習しながら比較して学習ができる。 2. 小児疾患の看護師国家試験問題を解き定期試験に臨むことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論（医学書院）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	小児ウイルス感染症	○			田中千尋	小さな生物 呼吸・循環・血液を看る	「小さな生物」で学んだ感染症を踏まえ、小児感染症の看護を学習する。
2	小児細菌感染症	○					体の調節と神経の病を看る
3	小児呼吸器疾患、小児気管支喘息	○				成人糖尿病との看護の違いを学ぶ。	
4	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎	○				医療ケア児の原因疾患であることが多いため、日常生活への影響を理解する。	
5	1型・2型糖尿病、低身長症	○			酒井道生	消化・排泄の病を看る	小児特有の消化器疾患は胎児期から発生している新生児より手術が必要なことが多い。手術適応時期を理解する。
6	脳性麻痺、二分脊椎、水頭症	○					ネフローゼ症候群と急性糸球体腎炎の乏尿期における看護の違いを理解する。
7	てんかん、筋ジストロフィ	○				呼吸・循環・血液を看る	小児がんで最も多い白血病である。
8	消化器疾患	○					小児循環器疾患における病態、治療とその経過の看護を学習する。
9	(外科疾患含む)	○			運動・体を守ることの病を看る	小児自己免疫疾患の治療とその後の経過を理解し看護につなげる。	
10	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎 尿路感染症、IgA腎症	○				小児運動器疾患の特徴と、その後の後遺症を看護へつなげる。	
11	白血病、神経芽腫、血友病、紫斑病	○			田中千尋		全ての小児疾患を看護に結び付け考えることが重要である。
12	心室中隔欠損症、ファロー四徴症 動脈管開存症、心房中隔欠損症	○					
13	川崎病、若年性特発性関節炎 若年性皮膚筋炎	○					
14	上腕頰上骨折、先天性股関節脱臼 ペルテス病、先天性内反足	○					
15	小児疾患をもつ子どもの看護	○					

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	こころの病を見る	講師	氏名	①井上雅之②鈴木宗幸③藤巻元④王寺貴弘⑤戸田真理	開講年次	2年次前期	単位・時間 1単位 15時間
			所属	①～④病院 ⑤専任教員			
			実務経験	①～④医師 ⑤臨床看護師			
科目のねらい	代表的な精神疾患を中心とした病態生理、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基礎的能力を身に付ける。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> すべての精神疾患の病態生理・治療・検査を理解し、述べることができる。 精神医療で用いられる検査、治療の概要を理解し、述べるができる。 精神障害を発症する成因を3つの視点（生物学的成因・心理学的成因・社会的成因）から理解できる。 薬物治療で用いられる薬の知識を得て、身体作用及び有害作用や注意点を述べるができる。 						
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 基本的な精神科治療を基に、それぞれの疾患に合わせた治療とその効用を記述できる。 病態生理と3つの成因を理解したうえで、対象の生活障害と精神症状の関連を考え、図示できる。 精神疾患の病態をふまえ、社会復帰をするこの困難さを説明できる。 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 精神疾患と精神症状を理解し、看護ケアについて自己の意見や疑問を述べるができる。 精神疾患の治療や検査と一般診療との違いを考え、質問できる。 自己学習により生じた疑問等について講義前後に質問し、積極的に調べるができる。 						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版） 系統看護講座 別巻 精神保健福祉（医学書院）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑤ EX5巻脳・神経（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	精神疾患における主な症状と治療	○			井上雅之	社会福祉 社会保障 発達心理学 こころの働きと精神保健 精神医療を支える看護 体の調節と神経の病を見る 小児の発達と看護	全ての講義開始前には必ずテキストで予習しておく。
2	1) 神経発達症	○					
3	2) 統合失調症 3) 気分障害 4) 不安障害 5) 強迫性障害 6) ストレス関連障害 7) 解離性障害	○					
4	8) 身体症状症及び関連症 9) 摂食障害 10) 物質関連障害	○					
5	11) パーソナリティ障害 すべての精神疾患に関連した治療と検査	○					
6	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会療法 4) 電気痙攣療法 5) 心理検査	○					
7	6) リハビリテーション療法等	○					
8	精神の病を看護の視点で見る	○			戸田真理	看護師としてどのように病をみていくのか、関連付ける。（心の働きと精神保健及び精神医療を支える看護と関連付ける。）	

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	病理学総論	講師	氏名	養本恵美	開講年次	1年次 前～後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	専任教員				
			実務経験	臨床看護師				
科目のねらい	病理学では、病気の病因と、成り立つ機序について一連の過程を学び、疾病をもたらす身体の変化について理解する。ここでは、疾病を主に病理学総論、細胞、代謝、感染症、炎症、免疫、循環障害、腫瘍、全身の各臓器に共通する病的変化について理解を深めていく。							
到達目標								
知識・技術	1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の疾患の病状、病因、病態について理解し述べることができる。 2. 疾患をもたらす機序について理解し述べるができる。 3. 症状のメカニズムを図式化することができる。							
思考判断・表現	1. 人体に生じる異常状態について原因、発生のしくみ、身体への影響を考え発言できる。 2. 主要な疾病の病因、病態、病状を関連付けて、説明することができる。							
主体的学習態度	1. 疾病（病気）の成り立ちに興味・関心を持ち、授業に臨む。 2. 興味関心を持ちながら講義に出席し、自ら調べ学習を行う事ができる。							
科目評価	筆記試験：100% 事後学習：確認テストが未提出の場合：1回につき5点減点							
テキスト	オンライン：ルートナース（病理学総論）							
参考文献	疾病の成り立ちと回復の促進1 「病理学」（医学書院）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	病理学総論①② ・病理学の医療における役割 ・看護において病理学を学ぶ意義 ・疾患の分類 ・病気の原因	○			オンデマンド講義	日常生活から見るからだ 小さな生物 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動をすることの病を見る 体を守ることの病を見る	※すべての内容を受講しないとい出席とみなさない。 1～7回 事後学習：確認テスト①②	
2	細胞①② ・細胞の障害と適応、老化 ・細胞の変性、壊死、萎縮、過形成	○					事後学習：確認テスト①②	
3	先天性異常①② ・遺伝と遺伝子 ・遺伝子変異、先天異常	○					事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。	
4	代謝①② ・脂質と脂質代謝異常 ・アンモニア、アミロイドーシス ・糖尿病	○					事後学習：確認テスト①②	
5	代謝③④ ・痛風と偽痛風 ・先天性代謝異常症 ・黄疸	○					事後学習：確認テスト①②	
6	感染症①② ・病原体と感染源 ・生体の感染防御機構 ・感染経路 ・感染症の経過 ・疾病発症の機序	○					事後学習：確認テスト①②	
7	感染症③④ ・主な感染症 ・感染症の治療と予防	○					事後学習：確認テスト①②	
8	1～7のまとめ	○					兼本恵美	問題を解き解説
9	炎症①② ・炎症に関わる細胞 ・炎症の分類と治療 ・急性、慢性炎症 ・炎症の分類、治療	○					オンデマンド講義	※すべての内容を受講しないとい出席とみなさない。 9～14回 事後学習：確認テスト①②
10	免疫①② ・免疫と免疫不全 ・アレルギーと自己免疫性疾患、臓器移植	○						事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。
11	循環障害①② ・循環系、浮腫、充血とうっ血、出血と止血 ・血栓症と塞栓症 ・虚血と梗塞など	○						事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。
12	環境因子①② ・生活習慣による生体障害 ・放射線による生体障害 ・中毒	○						事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。
13	腫瘍①② ・腫瘍について ・悪性腫瘍の広がりや影響	○						事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。
14	腫瘍③④ ・腫瘍の発生と病理 ・腫瘍の診断と治療	○						事後学習：確認テスト①② オンデマンド講義時間が超過する場合は、各自で受講しておくこと。
15	8～14のまとめ	○						兼本恵美

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	治療学総論	講師	氏名	開講年次	単位・時間		
			①廣郡聖妙 ②藤山誠啓 ③吉村直人 ④諸岡厚他 ⑤松莊美樹子 ⑥森 香予				
			所属	①～⑤病院			
			実務経験	①医師 ②放射線技師 ③作業療法士 ④臨床検査技師 ⑤がん放射線療法看護認定看護師 ⑥がん化学療法看護認定看護師	1年次 後期	1単位 30時間	
科目のねらい	各疾患に共通する治療、検査についてその概要を理解し、臨床看護に必要な基礎的知識を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法の概要を理解し説明できる。 2. 放射線療法の概要を理解し説明できる。 3. リハビリテーション療法の概要を理解し説明できる。 4. 臨床検査の概要を理解し説明できる。 5. 化学療法の概要を理解し述べるができる。 						
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術療法が身体に及ぼす影響を記述することができる。 2. 放射線療法が身体に及ぼす影響・効果を記述することができる。 3. リハビリテーション療法の目的と種類を理解し記述することができる。 4. 各、臨床検査の方法や禁忌事項を理解し記述することができる。 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・治療が安全に遂行され、どのように対象を支援しているか考えることができる。 2. 対象の状態にあわせて様々な専門チームが連携していることに気づく。 						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	系統看護学 別巻 臨床検査（医学書院） 系統看護学 別巻 臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学 別巻 緩和ケア（医学書院）						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	【手術療法】 1) 手術侵襲と生体の反応	○			廣郡聖妙	からだの構造 からだの機能 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体をまもることの病を見る 子どもの病を見る 病理学総論 臨床薬理学 薬物療法の看護	予習においてはテキストを熟読し、理解出来ない箇所を明確にする。 テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し理解を深める。
2	【麻酔法】 (1) 麻酔とは (2) 麻酔の種類	○					
3	【手術方法】 (1) 開腹、開胸手術 (2) 内視鏡下による手術 4) ドレーン管理	○					
4	【放射線検査】 1) 放射線医学の成り立ち	○			藤山誠啓		
5	2) X線診断 3) 血管造影 4) IVR 5) MRI 6) 核医学診断	○					
6	7) 放射線治療 8) 人体への影響と放射線防護	○					
7	放射線療法について	○			松莊美樹子		
8	【リハビリテーション療法】 1) リハビリテーション医学	○			吉村直人		
9	2) リハビリテーション療法の目的 3) リハビリテーション療法の種類と特徴	○					
10	(1) 運動療法 (2) 物理療法 (3) 作業療法	○					
11	(4) 言語療法	○					
12	【臨床検査】 1) 血液検査の臨床的意義	○			諸岡厚他		
13	2) 生化学検査の臨床的意義 3) 病理免疫血清検査の臨床的意義	○					
14	4) 生理機能・病理学的検査の臨床的意義 5) 超音波診断	○					
15	【化学療法】 1) 化学療法とは 2) 化学療法の作用・副作用	○			森香予		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	臨床薬理学	講師	氏名	①高橋浩二郎 ②中垣春美 ③坂井雅俊 ④安武夕子	開講年次	単位・時間	
			所属	②③病院 ④専任教員			
			実務経験	①病院薬剤師 ②臨床看護師	1年次 前～後期	1単位 30時間	
科目のねらい	薬物の特徴と作用機序、人体への影響（副作用、相互作用等）、薬物の取り扱いや管理について学ぶ。また、服薬指導や留意点の理解および最新医療情報（新薬、副作用、相互作用等）について検索し、薬剤師（多職種）との連携を通し看護師の役割を理解する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の特徴と作用機序を理解できる。 2. 人体への影響（副作用、相互作用等）を理解し、説明できる。 3. 薬物の取り扱い・管理方法について理解し説明できる。 4. 禁忌薬について説明できる。 						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の知識を使い類似薬品についての取り扱いを述べることができる。 2. 輸血の取り扱いについて列挙できる。 						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服薬指導上の薬剤師の役割と看護師の役割を知り、協同していることを理解する。 2. 薬害による影響を知り、自己で探求できる。 3. 薬理作用、有害作用を知り対象への指導方法に向けて考えることができる。 						
科目評価	定期試験（筆記）100% 合計100%						
テキスト	系統看護学講座 薬理学（医学書院）						
参考文献	医療用医薬品情報検索サイト（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構/PMDA）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	薬理学総論 中枢神経作用薬 心性・血管系作用薬	○			高橋浩二郎	全ての「病を見る」からだの構造からだの機能日常生活から見るからだ病理学総論各専門看護学	予習においてはテキストを熟読し、理解出来ない箇所を明確にする。テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し理解を深める。
2		○					
3		○					
4		○					
5		○					
6	薬理学各論 1 抗感染症薬 2 抗がん剤 3 免疫治療薬 4 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5 末梢神経作用薬 6 呼吸器・消化器・生殖器系作用薬 7 物質代謝作用薬 8 外用薬 9 救急薬 10 漢方薬 11 輸液製剤 輸血製剤	○			中垣春美・坂井雅俊		
7		○					
8		○					
9		○					
10		○					
11		○					
12		○					
13		○					
14		薬理学に必要な知識と看護	○				
15	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	社会福祉	講師	氏名	①草場希美 ②岩永伸輔 ③内園知美	開講年次	単位・時間	
			所属	①病院 ② ③			
			実務経験	①社会福祉士 ② ③			
科目のねらい	社会福祉の歴史的変遷から社会福祉のしくみについて学び、対象別に見た社会福祉における課題を通して、社会資源や支援を考える。また、地域福祉の推進へと変化していく社会において、行政と住民の新たな社会福祉の在り方「互助」の活動であるコミュニティソーシャルワークについて理解を深める。						
到達目標							
知識・技術	1. 社会福祉の歴史的変遷から社会福祉制度について述べるができる。 2. 地域福祉におけるコミュニティソーシャルワークの展開について説明できる。						
思考判断・表現	1. 現代社会における社会福祉課題に気づき、政策の実際の動向を考察できる。 2. 居住地の地域アセスメントを行い、発表できる。						
主体的学習態度	1. 居住地の市町村社会福祉協議会に自ら調整し見学をする。						
科目評価	定期試験(筆記)100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 公衆衛生 (メディカ出版)						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	社会福祉のしくみ	○			草場希美		
2	日本と諸外国の社会福祉の歴史	○					
3	社会福祉サービスの組織や団体	○					
4	社会福祉の担い手と役割	○					
5	社会保険制度	○					
6	社会福祉の実践(ソーシャルワーク、ケアワーク)	○					
7		○			岩永伸輔	地域アセスメントを行い発表する。	
8	地域福祉(コミュニティワーク)	○					
9	社会福祉協議会	○					
10	地域アセスメント、地域福祉計画	○					
11	母子父子寡婦福祉	○			内園知美	社会保障 地域生活支援 各専門看護学	
12	ひとり親家庭	○					
13	児童福祉	○					
14	子どもの貧困と対策	○					
15	児童福祉施設・児童相談所	○					
16	障がい者福祉	○					
17	就労支援障害者雇用促進法	○					
18	老人福祉	○					
19	精神保健福祉	○					
20	権利擁護と成年後見制度	○					
21	公的扶助(生活保護)	○	○				
22	貧困と格差問題とその支援	○					
23	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度シラバス

専門基礎分野

授業科目	地域生活支援	講師	氏名	坪根雅子	開講年次	単位・時間	
			所属	事業所	2年次 前期	1単位 15時間	
			実務経験	主任介護 支援専門員			
科目の ねらい	社会保障の中の地域包括ケアシステム及び在宅医療・介護、基本的な制度を学ぶ。また、その場に関わる多職種連携についても学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 地域包括ケアシステムの概念について理解し説明できる。 2. さまざまなライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援、サービス提供のシステムについて理解し列挙できる。 3. 訪問看護が行われるシステム、内容を理解し述べることができる。 4. 介護保険のしくみと機能を理解し、介護と医療の違いの特徴を列挙できる。 5. 救急医療の歴史と現状について理解できる。						
思考・ 判断・表現	1. 地域包括ケアにおける多様な専門職、および地域の人々と連携協働し活動する看護の役割について考えることができる。 2. 地域包括ケアの取り組みの実際を見学し、自己の考えをレポートできる。 3. 訪問看護が行われるシステム、内容を理解し述べるができる。						
主体的学習 態度	1. グループワークで積極的に自己の考えを述べるができる。 2. 新聞、テレビ等で報道されている内容について関心を持ち情報収集ができる。 3. 訪問看護及び介護保険施設について自己学習している。						
科目評価	定期試験(筆記) 80% レポート20% (①②) 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 16巻 社会福祉と社会保障 (メディカ出版)						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度③ 社会保障・社会福祉 支援と社会保障制度④ 看護関係法令 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	関連科目
		講義	演習	その他			
1	在宅医療 (1)在宅医療が進められた背景 (2)在宅医療の課題	○			坪根雅子 社会福祉 高齢者看護へようこそ 在宅看護総論 社会保障 公衆衛生	厚生労働省のホームページから在宅医療について検索し、在宅医療が進められた背景についてレポート提出①	
2	地域包括ケアシステム (1)地域包括ケアシステムとは (2)地域包括ケア病棟 (3)地域連携室で働く専門職と退院支援看護師の役割	○					
3	(4)地域支援事業	○					
4		○					
5	居宅サービス (1)訪問介護 (2)訪問看護 (3)訪問入浴介護 (4)訪問リハビリテーション (5)通所介護(デイサービス) (6)通所リハビリテーション(デイケア) (7)短期入所生活介護、短期入所療養介護(ショートステイ) (8)居宅介護支援事業 介護保険施設	○				(8)については居宅介護支援に関する動画を視聴し、実践を知る。	
6	(1)介護保険福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)介護療養型医療施設(療養病床) 地域密着型サービス (1)グループホーム (2)小規模多機能型居宅介護 (3)定期巡回・随時対応型訪問介護	○					
7		○					居宅サービス、居宅介護支援事業、地域密着型サービスについて新聞・テレビで報道されている内容をグループで共有
8		○					学習のまとめをレポート提出② 地域包括ケアシステム、居宅サービス、居宅介護支援事業、地域密着型サービス

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	社会保障	講師	氏名	柴口里則	開講年次	単位・時間	
			所属	事業所	3年次 前期	1単位 30時間	
			実務経験	社会福祉主事 主任介護支援専門員			
科目のねらい	我が国における社会保障制度を理解し、保健・医療・福祉システムの実際を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 制度が成立するまでの社会的背景を理解する。 2. 社会保障制度の概要を理解し、どのような補償内容があるのか説明できる。 3. 我が国の医療保険制度と保険診療のしくみについて理解する。 4. 年金制度のしくみを理解する 5. 国の難病対策（医療費助成、法律）について理解する。 						
思考 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度やそれを担う体制を知ること、臨床現場で必要とされる多職種連携と関係づけられる。 2. 医療保険制度を理解し、グループワークすることでそれぞれの仕組みについて具体的に図示できる。 3. 難病対策の意義・目的を理解し、医療費助成制度や難病法を事例を使って紹介できる。 						
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークで積極的に自己の考えを述べることができる。 2. 新聞、テレビ等で報道されている内容について関心を持ち、情報収集ができる。 3. 社会保障の講義資料を活用できる。 						
科目評価	定期試験（筆記） 100% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 （メディカ出版）						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 （医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	社会保障制度の体系と歴史	○			柴口里則	公衆衛生 社会福祉 高齢者看護へようこそ 在宅看護総論 地域生活支援	社会福祉を復習しておくこと
2		○					・保険の種類(種類の違いについて、自身、家族の保険がどれに該当するか)を調べてグループワークと発表
3		○					・身近な事例を用いて講義
4	医療保険制度(国民健康保険、健康保険、協会けんぽ、共済組合)の種類と給付の仕組み 高額医療費制度	○					<ol style="list-style-type: none"> ・厚生労働省のホームページで関連政策を調べておく ・看護師が主に働く職場の医療保険について調べておく
5		○					
6	難病対策	○					
7		○					
8		○					
9	所得保障 雇用保険 労災保険	○					
10	年金制度・生活保護制度	○					
11		○					
12		○					
13	高齢者医療制度	○					
14		○					
15	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	健康教育	講師	氏名	①幡本夏実 ②小池正美 ③内藤直美	開講年次	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	①訪問看護ステーション ② ③専任教員				
			実務試験	①臨床看護師・保健師 ② ③臨床看護師				
科目のねらい	人々の健康維持のために必要な保健、医療、福祉における各種機関の役割と連携について理解する。さらに健康教育の基本的な知識と教育指導技術を身に付ける。							
到達目標								
知識・技術	1. 様々な組織の間でのネットワーク、そして協働について理解し、述べることができる。 2. 健康とは何かについて理解し、自己の言葉で説明できる。 3. 各地域の保健所業務を見学し地域の現状を知ることができる。 4. 保健所業務について理解し、具体的に列挙できる。 5. 地域における救急医療体制の現状を知り、述べるができる。							
思考・判断・表現	1. 看護職者として必要な医療や看護に関連する社会のシステムを図示できる。 2. 看護師の業務を中心として、他の医療スタッフとの業務の関係性について把握したうえで多職種での連携のあり方についてグループ討議ができる。 3. 1～3次までの予防教育を知識を得、健康指導プランを実践できる。							
主体的学習態度	1. グループワークや討議に積極的に参加し、意見交換ができる。 2. 課題について自己で調べることができる。							
科目評価	定期試験（筆記）70% レポート及びワークの提出内容30% 合計100%							
テキスト	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版							
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 (医学書院)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	1. 健康教育とは	○			幡本夏実	ICTの基礎 情報科学 社会福祉 社会保障 公衆衛生 地域と暮らし 地域生活支援 各実習		
2	2. 1次、2次、3次予防とは	○						
3	3. 健診(乳幼児、特定、歯科健診)	○						
4	4. エイズ、肝炎、結核、性病、伝染病棟の置ける保健所業務における予防検診 予防接種法	○						
5	5. 職種と機関 それぞれの役割と連携について 1) 医師 2) 薬剤師 3) リハビリ 4) 管理栄養士 5) ソーシャルワーカー 6) 検査技師 7) 保健師	○			小池正美		講義中にグループワークでそれぞれの職種の職種と役割について調べる。	
6	6. 保健所業務（母子、老人、歯科、精神保健センター）と役割	○					各自の居住地域にある保健所について調べ学習し、保健所業務の内容と居住地による業務の差を検討する。	
7	7. 保健所業務をまとめ、他の施設との関連を図示して発表		○		内藤直美		それぞれの役割と業務をまとめ、互いに情報共有する。	
8			○					
9	8. 救急医療サービス 1) 救急医療体制の歴史と各段階を知る 2) 救命救急センターの現状 3) 医療圏とは	○					身近な体験を使ってそれぞれ1・2・3次予防教育プランを作成	
10		○						
11	9. 健康予防的視点を使ってシミュレーション (1次・2次・3次予防教育の実践プラン作成)	○					それぞれの役割となり、シミュレーションする。	
12			○					
13	10. 教育指導場面のシミュレーション		○					
14			○					
15	11. まとめ	○						

健康支援と社会保障制度

(令和6年度3年生用)

専門基礎分野

授業科目	公衆衛生	講師	氏名	吉田 壽一	開講年次	単位・時間	
			所属		3年次 前期	1単位 30 時間	
			実務経験	非常勤講師			
科目のねらい	公衆衛生の意義や歴史や人間の病気、死因の変遷等を統計資料を基に学習し、健康、疾病の予防、環境保全、保健活動を諸法や制度、施策及び行政との関連について学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 公衆衛生全般の制度および政策について理解し述べることができる。 2. 環境と健康との関連を理解し、説明できる。 3. 人口問題について説明できる。 4. 健康問題・疾病の予防と保健活動について理解し、述べることができる。						
思考 判断・表現	1. 現代の健康問題を把握し、その解決策について考えることができる。 2. 環境と疾病との関わりを統計学的なデータを使って調べることができる。 3. SDGsについて事前に学習し、意見できる。						
主体的学習 態度	1. 主体的に学習し講義に参加することができる。 2. 日本の環境問題や疾病問題について興味関心を持ち、探求できる。						
科目評価	定期試験(筆記) 100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 (メディカ出版) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)						
参考文献	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学 (メヂカルフレンド社)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	公衆衛生とは何か	<input type="radio"/>			吉田 壽一	各専門看護学 社会福祉 地域生活支援 社会保障 健康教育 国際看護	SDGsについて調べ講義に臨む
2	世界の公衆衛生の歴史	<input type="radio"/>					
3	公衆衛生の発展	<input type="radio"/>					
4	プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション	<input type="radio"/>					
5	疾患の発生状況 有病率、罹患率	<input type="radio"/>					
6	健康状態や医療水準 平均寿命、平均余命	<input type="radio"/>					
7	健康寿命・死亡率、死因 人口問題と人口動態統計 原因と疫学的因果関係と対策	<input type="radio"/>					
8	産業保健 感染対策	<input type="radio"/>					
9	地球環境	<input type="radio"/>					
10	日本の環境保全 住環境	<input type="radio"/>					
11	食品管理 家庭用品の安全対策	<input type="radio"/>					
12	ごみ・廃棄物問題 公害	<input type="radio"/>					
13	国と地方自治体の役割 ・保健所	<input type="radio"/>					
14	・市町村保健センター 専門職の働き	<input type="radio"/>					
15	まとめ	<input type="radio"/>					